

平成20年度全国学力・学習状況調査結果の 大村市の状況についてお知らせします

4月に全国で実施された全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されました。市教育委員会では、より望ましい学習環境を整備するには地域の協力が必要と考え、学力や生活状況、意識について、調査から明らかになったことをお知らせします。

子どもたちの健やかな成長のため、ご理解とご協力をお願いします。

1 調査日時

平成20年4月22日(火)

2 参加状況

校種	学年	学校数	参加人数/在籍数(参加率)
小学校	6年	15校	1,070人/1,086人(98%)
中学校	3年	6校	993人/1,048人(95%)

3 学力調査

平均正答率

校種	教科	対象	小学6年生		中学3年生	
			知識	活用	知識	活用
国語		全国	65.4	50.5	73.6	60.8
		本市	63.6	46.0	73.4	59.7
算数 数学		全国	72.2	51.6	63.1	49.2
		本市	71.3	49.1	62.3	48.9



本市の概況

小学校 国語においては、知識・活用ともに全国平均値を下回っています。特に、目的や意図に応じて、段落の内容をとらえたり、一定時間内にまとまりのある文章を読むなど「読む」領域に課題があります。

算数においては、知識・活用ともに全国平均値をわずかが下回っています。課題として、「基礎的・基本的な技能・知識の習熟」と「発展的に考えること」があげられます。

中学校 国語においては、知識・活用ともに全国平均値をわずかが下回っています。中でも、複数の資料から情報を正しく読みとること、さらに収集・整理した情報を自らの中で再構成し、効果的に表現することなどに課題があります。

数学においても、知識・活用ともに全国平均値をわずかが下回っています。各領域ともに基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とそれを活用する能力に課題があります。

4 学習状況調査

調査結果(抜粋)

調査項目			小6	中3
1	毎日朝食を食べている	全国	95.4	91.9
		本市	95.8	93.4
2	夜10時までには就寝する(小) 夜12時までには就寝する(中)	全国	41.4	69.5
		本市	44.8	75.2
3	朝7時までには起床する	全国	75.0	65.1
		本市	86.5	75.5
4	授業以外に1時間以上 学習をしている(月～金)	全国	56.1	65.4
		本市	53.6	67.8
5	学校以外で30分以上 読書をしている(月～金)	全国	36.8	27.9
		本市	38.2	28.9
6	携帯電話を持っていない	全国	68.4	38.1
		本市	77.9	52.0

調査項目			小6	中3
7	テレビゲームを2時間以上 使用する(月～金)	全国	23.9	21.3
		本市	21.4	16.6
8	インターネットを2時間以上 使用する(月～金)	全国	7.1	15.9
		本市	4.4	15.9
9	人の気持ちが分かる 人間になりたいと思う	全国	91.9	92.5
		本市	94.2	94.2
10	いじめはどんな理由があっても いけないことだと思う	全国	94.7	89.5
		本市	96.7	92.1
11	今住んでいる地域の歴史 や自然に興味がある	全国	48.2	23.5
		本市	46.7	21.7
12	今住んでいる地域の行事 に参加している	全国	59.9	37.0
		本市	50.3	22.2

本市の概況

学習状況および生活状況を全国と比較してみると、昨年同様、小・中学生ともに全体的におおむね望ましい傾向にあることがうかがえます。

生活面では、現在、各校が進めている「早寝・早起き・朝ご飯」が定着しつつあり、規則正しい生活がされています。

学習面では、家庭での学習が習慣化しているのは、中学3年生で約7割、小学6年生で約5割という結果でした。ただ、自分で計画を立てて行う学習や、授業の予習・復習をするといった「自ら学習する意欲」という面では、まだまだ課題があります。読書の習慣化と合わせ、さらに充実を図っていきたいと考えます。

最近問題になっている携帯電話の所持については、全国と比較してかなり低く、テレビゲームやインターネットの使用時間も短めという結果でした。しかしながら、携帯電話やインターネッ

トの誤った使い方が引き起こす問題は全国的に増加傾向にあり、その所持や使用方法などについては、学校・家庭・地域が見守っていく必要があります。

心の面に目を向けてみると、9割を超える児童生徒が、「人の気持ちが分かる人間になりたい」、「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えており、規範意識が育っていることが分かります。

ところが一方では、「大村の歴史や自然に関心がある」、「地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の比率がかなり低く、全国平均も下回っています。市は、めざす子ども像として、『郷土を担い、故郷を誇りに思う子ども』の育成を掲げており、今後特に改善が望まれる部分です。

5 調査結果の活用について

今回の調査の目的は、教育の機会均等と教育水準の維持向上にあります。得点率の比較にばかり目をとられ、過度な安心感や無用な不安感を募らせてはなりません。学校・家庭・地域の三者が、まずは大村の子どものよさを知り、連携・協力を図り、安心して安定した子育てができるまちづくりをすることが、「確かな学力」や「豊かな心」につながります。

これを踏まえ、市は「魅力ある学校づくり」を第一の目的に掲げ、学校・家庭・地域が一体となって、それぞれの立場から子どもたちの学習環境を整備することに、今回の調査結果を活用していきたいと考えています。

■問い合わせ 学校教育課(内線364)



市立大村市民病院 ☎2161

二病息災(いちびょうそくさい)



救急・総合診療科 多田 昌史先生

「無病息災」という言葉を聞いたことがないという人はほとんどいないと思います。ここでは「二病息災の意味について私の具体的な体験例をあげて紹介します。」

無病息災と二病息災

無病息災とは、元来は仏教用語ともいわれ、「無病」は病気がかかっていること、「息」はやめる、防ぐという意味で、「息災」は仏の力によって災害、病気など災いを除くという意味です。つまり「病気をせず、健康であること。元気がこと。転じて、健康で元気なこと」を表しています。

一方、「二病息災」とは、「何かひとつ持病を持っているほうが体に気をつけるので、かえって大病を患うこともなく、無事に一生を終えることができる」という意味です。

言い換えると「ひとつの病気で定期的に病院に通っているうちに別の病気が見つかり、早期治療で助かった」ということにも当てはまるのではないのでしょうか。

また、病気になるのは多かれ少なか

れ、それまでの生活に問題があることが多いものです。単に薬を飲むだけではなく、それまでのあり方を見直すきっかけにしたいだけだと思います。

あなどれない二病について

一病息災で日頃から健康に気を配り定期的に病院に通院していると、全く健康で普段は病院に行つたことがない人と比べると別の病気が発見される確率は高くなります。実際、頭痛と思つて受診をしたら、血圧が200台もあり「高血圧」と診断され、検査を進めるうちに糖尿病が発見され、さらに初期段階の心臓病まで発見されたことがあります。たとえ「二病」といっても決してあなどつてはいけません。

高齢化と生活習慣病

また、高齢化に伴う生活習慣病も増えています。現代社会は30歳以上の3割から4割は高脂血症・高血圧などの生活習慣病を抱えていると言われています。労働力人口の減少の中、高齢化社会で寝たきりにならず、元気な老化を維持していくには生活習慣病を「二病」としてつきあつていく必要があるのかもしれない。

当院では、何科にかかったらよいのか分からない場合に利用していただく「総合診療科」や、健康診断や企業健診を担当する「健診センター」を設置しています。皆さんの健やかな人生のために日頃からの健康管理、「二病息災」のためにご利用ください。

第67回 ふれあい健康講座

お年寄りの骨折・寝たきりにならないために

とき 12月6日(土) 13時~14時

ところ 市民病院大会議室

講師 高木基行整形外科医

※どなたでも自由に参加できます。

手話通訳、要約筆記も行います。